

経営理念	人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校
------	-------------------------

【学校運営協議会・会長】 学校運営協議会（学校評価分）第1回 第2回 第3回	月 日（） 月 日（） 月 日（）	様式4
---	-------------------------	-----

				自己評価				学校関係者評価			
				目標値		最終評価					
				7月 達成値	12月 達成値	達成度	評価				
経営目標 (中期・短期を明記)				評価指標				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)			
				改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)				意見			
								評価点 (4点満点)			
確かな学力の向上	《指導力の向上》 ◆(中期) 学習意欲・思考力・判断力・表現力の向上 ◆(中期) 知識・技能の確実な定着	◇授業改善推進プランに基づき、「学習意欲」「思考力・判断力・表現力」の向上と「知識・技能」の定着を図る。 ◇東京ベーシック・ドリルの内容の、7割以上の定着を図る。	○(保護者アンケート)肯定的評価の割合 ○第5学年都調査と類似問題の結果の比較 ○ベーシック・ドリル診断テストCの結果	80		78	B	・「学習意欲」「思考力・判断力・表現力」の向上を図れるように計画的に授業をしている教員が多い。 ・問題解決型の授業を展開し、一人一人が考えをもつ機会をもたせることで、多くの児童が自分の意見をもてるようになった。 ・一方で、東京ベーシック・ドリルの内容の7割以上の定着を図ることができておらず、「知識・技能」の定着には課題がある。	・視覚的支援や個別支援、友達との教え合い等しながら、一人一人が様々な説明をしたり聞いたりする活動をさらに増やしていく。 ・新しい学習をする際に、既習の学習とつなげて理解させるような授業展開をしたり、既習の問題を繰り返し解いたりして、既習事項の定着を図る。 ・家庭や地域と協力して学習内容の定着を図っていく。	・「数」をもとに考える力が不足しているように感じるので、家庭学習の習慣をつけさせたい。 ・昨年度より評価が落ちてしまった。地域の人が関われる時間は限られるので内容を深めることができればいいのか。	3
	《地域との連携》 ◆(中期) 保護者・教育支援ボランティア(地域)を活用した共同的活動の推進	◇「繰り上がり」「繰り下がり」の徹底を図る。(基礎学力の定着) ◇「かけ算九九」(基礎学力の定着)…11月、3学期末 ◇「八小なるほど塾」(基礎学力の定着)…2学期に実施 「詩の暗誦」(基礎学力の定着) ◇ 期末テストを実施して、学習内容の定着を図る。	○「伸びゆく子」の評価	80		83	A	・宿題の丸付けや音読、九九等を保護者をお願いして、児童の学習を学校と家庭とで連携を図りながら支援することができている。 ・保護者会や学年便り等で期末テストを取り組む意義を伝えたことで、児童の家庭での学習意欲向上につながった。 ・一方で、なるほど塾では学習態度や礼儀が身に付いていない児童もあり、地域の方に御迷惑をかける実態があることが分かった。	・宿題の丸付けや音読、九九、なるほど塾の丸付けボランティア等、効果が期待できるものについては今後も継続していく。 ・期末テストにおいて不合格のまま学期末を迎える児童のためにも、今まで以上に保護者への啓発をして、不合格者ゼロを目指す。 ・なるほど塾の対象となる児童を見直す等して、地域の方が安心して学習指導をできる場となるように工夫する。	・地域の人が児童にしてくれていることを、広く深く知らせていきたい。	4
豊かな心の育成	◆(中期) いじめ撲滅への取組	◇週1回の生活指導夕会に合わせて、学年内で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、いじめ認知の確認と、報告・協議を行う。	○「ふれあい月間」の結果 ○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		100	A	・生活指導夕会や特別支援校内委員会で、いじめの認知や指導、対応の方法について話し合うことを通して、いじめの未然防止、早期発見につなげることができた。 ・日頃から児童の様子を注意深く観察したり、学級全体に話をしたりしている。また、保護者にも確実に連絡をして、学校と家庭とで指導ができようになっている。 ・保護者の理解があって大きな問題に発展していないケースもある。	・生活指導夕会や特別支援校内委員会への報告、連絡、相談を継続して行っていく。 ・「ふれあいアンケート」等を活用して、今後も児童の様子を丁寧に見取り、改善するまで指導を続けたり、学級全体が仲よく過ごせるように環境づくりに取り組んだりしていく。 ・どの学年の児童についても見逃さずに指導し、学校全体でいじめ未然防止に努めていく。	・人を思いやることの評価が上がるのはうれしい。続けてお願いします。	4
	◆(中期) 特別支援を要する児童への対応	◇特別支援コーディネーターを中心に学校（担任、学年主任、生活指導主任、養護教諭、SC、特支専門員、等）と保護者、外部機関（教育相談、医療、等）で適切な支援の共通理解を図る。 ◇月1回開催する「特別支援校内委員会兼いじめ防止対策委員会」で、該当児童への支援の確認と協議を行う。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80		94	A	・特別支援校内委員会で支援を要する児童について情報共有し、今後の支援の方策を検討することができている。また、保護者とも支援について確認することができた。 ・学習や学校生活の中でトラブルや困り感があった際には、特別支援教室の先生方にも相談しながら支援について考えることができた。 ・一方で、学級内で支援を要する児童への対応が後手に回ってしまったり、担任一人で授業を進めながら個別支援をすることへの難しさを抱える教員がいたりする現状がある。	・今後も特別支援校内委員会で情報共有をして、支援の方策について検討していく。また、保護者とも連携を密に行い、適切な支援の方策について共通理解を図っていく。 ・SCや巡回心理士等、担任以外の方も様子を見て、児童の特性を見極めたり、適切な支援の方策について考えたりして、より一層多角的な視点で児童理解を図っていく。 ・支援の方策について振り返りを行い、より適切な支援について検討を重ねていく。	・支援を要する児童にも様々なケースがあるかと思いますが、地域でもなにかできることがあれば応援したいと思います。	4
	◆(中期) 思いやりの心をもち、明るい挨拶や会釈のできる子供の育成	◇「挨拶の励行」を推進する。(随時) ◇【徳育科】指導法、評価方法、指導資料や教材の開発を柱に、豊かな心の育成を図る。 ◇校外学習を徳育科の実践の場と捉え感謝の気持ちを言葉や態度で表せるようにする。	○(自己評価)児童の行動についての肯定的評価の割合 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		94	A	・児童アンケートで肯定的回答が92%を示し、学校や学年の平均値よりも高い数値を示した学級がある。 ・廊下で先生にすれ違った時にも挨拶する指導を学年全体で毎日行ったことで、進んで挨拶できる児童が増えた。 ・校外学習では望ましい姿が見られるが、日常生活の中で実践することが難しい児童もいる。	・職員も校内で挨拶することの意識をより一層高め、児童の手本となる行動をしたり、進んで挨拶する児童を褒めて価値づけたり、挨拶の良さについて納得させたりして、気持ちの良い挨拶ができる児童の育成を目指す。 ・徳育科の学習や日々の生活指導を通して、言葉遣いを整えたり思いやりの心をもたたりする指導を重ねていく。	・「お手伝いクラブ」の活動の際に、児童が元気で明るい挨拶してくれるので、こちらも元気をもらうことができる。豊かな心の育成の成果が現れていると思う。 ・挨拶は身を守ることに役立ち、周りの人を気持ちよくさせる効果もあることを感じていただきたい。	4
	◆(短期) 話を一度で聞き取る子供の育成	◇「教室の中で話しているのは一人」の「教室」を、全校朝会、児童集会、学年集会、等の場に拡大し、推進する。	○(自己評価)肯定的評価の割合	80		73	B	・全校朝会や児童集会、学年集会等、全体で集まっている場面では、最後まで黙って話を聞くことができるようになってきた。 ・児童アンケートでは肯定的回答の割合は、平均値に近い数値であったが、最上位の回答（よくあてはまる）の割合が低い数値であった。 ・静かに聞いているようで、「聞き取る」「聞いたことを行動に移す」ことが難しい児童が多数いる。	・話を聞くことの大切さを指導しながら、他者の話を大切に聞いている児童を褒めて価値づけ、話を一度で聞き取る児童の育成を目指す。 ・「教室の中で話しているのは一人」ということを、今後も学校全体で指導していく。 ・話が終わった後に、どれほど理解できているか確認することを通して、考えながら話を聞いたり一度で聞き取ったりできる児童の育成を目指す。	・災害時や突発的な出来事が起きた時に、先生の指示を正しく聞き取れることは命を守る事に通じる大切な力だと思うので、6年間御指導いただきたい。 ・話を聞きながら、自分の考えを展開していくことは大人でも多くあり、難しい課題かと思っています。	3
健やかな体の育成	◆(短期) 「早寝、早起き、朝ご飯、(歯磨き)」の徹底	◇検診の際に行う保健講話により意識付けを図る。 ◇各学年の目標値を明確に示し、8割以上の定着を図る。	○生活リズムの集計結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		77	B	・日々の学級指導や保健の授業で、早寝・早起き・朝ごはんについて指導している。 ・生活リズムチェック表では、早寝・早起きを意識している児童の割合が少なかった。 ・インターネットやSNSの利用で遅くまで起きている児童や朝ごはんを食べない児童が一定数いる。それに伴い、遅刻が続く児童もあり、家庭に連絡を取って生活習慣の改善を求めた。	・保健便り等を活用しながら、今後も「早寝・早起き・朝ごはん」について指導したり、安定した生活リズムで生活できたりするように指導を続けていく。 ・保護者会等で保護者へ働きかけて、家庭での生活リズムを整えられるように啓発していく。	・学校としてはこれ以上の働きかけは難しいと思う。何か地域で出来ることはないか検討していきたい。 ・家族揃って行うことが難しい環境も多いことと思います。できることが限られるので、やはり難しい課題と思います。	3
	◆(中期) 運動好きの児童の育成	◇中休みの外遊びの奨励、なわとび集会、体力向上月間、学級全員遊びの機会を充実させる。 ◇OJT夕会で体育指導を扱い、体育授業の充実を図る。	○新体力テストの結果 ○(児童アンケート)肯定的評価の割合	80		93	A	・休み時間に外遊びを好む児童が多く、授業後に積極的に校庭へ行く児童が多い。 ・休み時間には外遊びに行くように声掛けをするとともに、一緒に遊ぶことによって運動する機会を作れたり、児童の外遊びの習慣化を図れたりすることができた。 ・体力テストの結果を見ると、ほとんどの項目で全国平均を下回っており、さらなる体力向上が課題となっている。	・今後も学級遊びをしたり、教員も一緒に遊んだりして、外で遊ぶことの楽しさを児童に実感させる。 ・児童が経験したことのない遊びを提唱したり、楽しんで運動ができる環境作りに取り組んだりして、運動に親しむ児童の育成を目指す。 ・体育の授業で運動量を確保したり、運動が苦手な児童でも「運動が楽しい」と実感できたりするような授業計画を立てる。	・周りの人と力を合わせることも、身につけてほしいと思います。	4
防災意識の向上	◆(中期) 災害や犯罪に対応する取組	◇年間計画に基づいて、実際に近い想定で確実に実施する。(火災、地震、不審者侵入、竜巻、引き取り、集団下校、暴風雨、セーフティ教室、自転車教室、交通安全教室)	○(児童アンケート)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		105	A	・避難訓練の事前事後の指導や真剣に取り組む姿勢については徹底的に指導したことで、実際に近い想定で確実に実施することができた。 ・児童アンケートの結果から、8割以上の児童が肯定的回答を示した。避難の方法については、9割の児童が理解している結果となった。しかしながら、「あまりあてはまらない」と回答した児童もいる。	・「災害はいつ自分の身に起こるか分からない」ことを繰り返し話をすることで、主体的に考えて行動できる児童の育成を図る。 ・登下校中に児童が災害や犯罪に巻き込まれた時のことを想定して、地域の方にも協力してもらえ体制を整えていく。	・災害時に、身を守ることに、自分にできることを意識しておき、行動できるようにしておきたい。	4
教師としての質の向上	◆(中期) 「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、問題解決型の学習過程を身に付けること	◇全教員が「八小授業スタンダード」に基づいた授業を1週間に5回以上行う。 ◇全教員が「一人一研究」に基づいた研究授業を年2回以上行う。	○(自己評価)授業後の肯定的評価の割合	80		81	A	・「八小授業スタンダード」に基づきながら、校内研究で行っている算数科の授業や「一人一研究」の授業を中心に、問題解決型の学習を行うことができた。それにより授業の型が身に付いた。 ・学年で相談しながら問題解決型の授業を意識して行ったが、問題を解決していくこととする意欲に欠けている児童が見られたことがあった。 ・授業力向上が今後の課題として捉えている教員がいる。	・今後も「八小授業スタンダード」に基づいた授業や「一人一研究」の授業を行い、問題解決型の授業を展開していく。 ・授業の中で児童が意欲的に解決に向かえるように、問題作りを大切にしたり、「解決したい」という思いをもたせる工夫をしたりする。 ・今後も校内研究や市の教育研究会、他校の研究授業等に積極的に参加し、自らの授業力向上に努めていく。	・先生方の評価が比較的低いのが気になりますが、よくやられていると思います、ありがとうございます。	4
	◆(中期) 児童の健全育成、安全対策を推進するために、地域・家庭との連携を深めること	◇教員それぞれが、年間6回程度PTA活動や地域行事へ参加する。 ◇学級からの配布物、電話、面談、家庭訪問などの手段を用いて、適宜保護者と連絡を取る。 ◇年1回接遇研修を実施し、教員の対応力の向上を図る。	○(自己評価)肯定的評価の割合 ○(保護者アンケート)肯定的評価の割合	80		94	A	・コロナ禍の収束に伴って多くの行事が行われ、それらの活動に参加して連携を深めることができた教員が多い。 ・学級便りや学年便り、三者面談、保護者会等で保護者に連絡を行い、連携を図ることができた。児童が頑張った事柄を保護者にお手紙で伝えている教員もいる。 ・一方で、保護者会への出席率が低いことや連絡が取りづらい家庭があることが課題となっている。	・今後もPTA活動や学校運営協議会に参加することで、地域や家庭との連携を深めていく。 ・地域や家庭の願いを十分に理解して、保護者とともに児童の良さを伸ばしていくように、より一層丁寧な対応を心掛け、児童の指導に生かしていく。 ・電話や連絡帳を活用して、学校から家庭へ積極的に発信していく。	・「お手伝いクラブ」の存在は、八小を特徴付ける活動の一つであると思う。先生方の多忙を改善する策の一つにしたいと思っているため、校歌の把握を求めたい。 ・先生方が活躍できる環境をつくるために、地域の人がお手伝いできるように心がけたいと思います。	4

【達成度】＝〔達成値〕／〔目標値〕 【評価】 A：8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B：8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C：5割未満→目標の見直し	達成値 4：よくできている 3：おおむねできている …肯定的 2：あまりできていない 1：できていない …否定的	
--	---	--